

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2008 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	空間データ利用小委員	主 査 名：須藤 諭 就任年月：20 年 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：渡邊 浩文
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	GIS (地理情報システム)、リモートセンシング技術を都市 (環境) 計画、防災計画等への活用可能性を検討する。 初年度：・小委員会の活動方針の検討・委員の研究内容の紹介・外部講師による話題提供 2 年度：・GIS、リモートセンシング活用分野の検討・ホームページ公開 3 年度：・対象エリアを選定し、共同研究・自治体の計画への活用検討 4 年度：・研究のまとめ・「(仮称) 建築・都市環境のリモートセンシング・地理情報システム利用」の出版・シンポジウムの開催	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有り	
	○須藤諭 (東北文化学園大学)、△依田浩敏 (近畿大学)、△小松義典 (名古屋工業大学)、飯野秋成 (新潟工科大学)、岩井一博 (信州大学)、川村広則 (東北文化学園大学)、客野尚志 (兵庫県立人と自然の博物館)、斉藤郁雄 (八代工業高等専門学校)、田中貴宏 (広島大学)、松岡昌志 (防災科学技術研究所)、吉田聡 (横浜国立大学)、川崎昭如 (横浜国立大学) ○主査 △幹事	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2008 年度予算	円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：なし

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 公開勉強会「活用事例を通して空間データシステム利用の可能性を考える」 参加者数 30 名 資料発行「活用事例を通して空間データシステム利用の可能性を考える」 (約 p 60)
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 研究リストの作成、活用分野の系統的分類・・・終了した。 2. GIS、リモートセンシング活用分野のシンポジウムの開催・・・公開勉強会として開催終了した。
委員会活動 の問題点・課題	1. 当小委員会はデータ利用法についての検討となっており、他の小委員会との関連を検討する必要が出てきている。 2. 全国各地の委員構成であったが、旅費予算の少ない委員会としてテレビ会議システムが有効であった。しかし、公開勉強会において制度として活用ができなかったのはマイナスであった。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

*

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>1. 空間データ利用研究の系統的整理 前進委員会からの申し送りもあり、当小委員会において「論文選集」のとりまとめを行なうことで、RS あるいは GIS 等の空間データ利用研究の系統的整理を行なうことが課題のひとつであった。 環境工学委員会に RS を対象とするワーキンググループがあり、そこで RS 関連の論文選集が第 4 集までつくられていた。空間データ利用小委員会ではそれを引き継ぐ形で第 5 集 (RS 第 5 集、GIS 第 1 集) を作成した。今回は新たに GIS 研究文献も対象とし、また文献検索のための分類用インデックスを各文献に付与した。インデックスは 4 つ (発表年、対象地域、研究目的、利用した空間データ) あり、これらを利用して検索ができるような形にした。文献数は近年増えており、GIS と RS を併用するケースが増えている。</p> <p>2. 勉強会・シンポジウムの開催 「空間データ利用小委員会」は約 4 年前に環境工学委員会の中にできた小委員会 で、建築分野における空間データ利用のあり方を検討することをテーマとしている。具体的には、GIS (地理情報システム) や RS (リモートセンシング) を扱う様々な分野の調査・研究事例の共有化を目的とし、委員を中心とした勉強会を開催した。シンポジウムとしては、他の小委員会との関連を検討するため、公開勉強会として開催した。</p> <p>3. ホームページの公開 論文選集の出版に代えて、ホームページ上での公開を検討したが、著作権の問題などが指摘され、実現に至っていない。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。